

# 所信表明



1月1日に発生しました能登半島地震により、多くの尊い命が犠牲になり、そして今もなお、多くの方が避難を余儀なくされています。町では、2月5日から9日までの間、県の要請に基づき職員1人を被災地に派遣し、罹災証明の申請に伴う被災家屋の調査を行ってまいりました。能登地域を始めとした被害に遭われた多くの方々に、心からお見舞いを申し上げますと共に、1日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症の位置付けが、季節性インフルエンザと同等の5類へ移行されたことに伴い、これまで実施が見送られてきた多くのイベントが数年振りに実施されるなど町に活気が戻ってきました。

令和6年度につきましては、西会津町総合計画・後期基本計画に定めた、町の将来像、まちづくりの方向性に基づき各種施策を推進し、本町発展のために、持続可能な社会の実現のため、最大限努力していく覚悟です。

さらに、本年は町制施行70周年の節目の年です。今日まで西会津町の礎を築いてこられた先人諸氏ならびに町民の皆さんに改めて衷心より敬意と感謝の意を表する次第であります。

町といたしましては、この記念すべき年に併せ、さまざまな関連事業を計画し、西会津町の魅力を全国に広め、さらなる活性化を図るべく、引き続き積極的なまちづくりを推進してまいります。

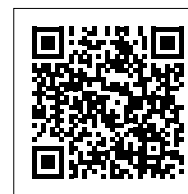
# 令和6年度町政方針

## 基本方針

令和6年度は、引き続き西会津町総合計画・後期基本計画に基づき、町の将来像「笑顔つながり夢ふくらむまち」を1つと、西会津町の実現に向け、4つの方向性の下、各種事業を総合的に実施します。（事業内容は4ページから）。

計画の推進に向けた取り組みとして、まちづくりの根幹を成す「まちづくり基本条例」に基づく町民主体の協働のまちづくりを一層推進し、「官民連携」による効率的で効果的な事業運営を進めます。

人口減少対策の3本柱として「人材育成」「移住定住の促進」「健康長寿」を事業推進の基本的な考え方に据え、西会津町デジタル戦略の着実な実行、SDGsの推進、ウィズコロナ・ポストコロナへの対応により人口減少対策の加速化を図り、持続可能なまちを目指して取り組みを進めます。



▲後期基本計画は町ホームページからも閲覧することができます

※国土交通省東京航空局への福島県内包括飛行申請の承認を受け、喜多方警察署および西会津交番に飛行の届出をしています。

## 計画の推進に向けて

町総合計画の推進に向けた取り組みとして、まちづくりの根幹を成す「まちづくり基本条例」に基づく町民主体の協働のまちづくりを一層推進し、「官民連携」による効率的で効果的な事業運営を進めます。

また、ふるさと応援寄附金事業については、「日本の田舎、西会津町。」を最大限活用した地域産品のブランド力強化ならびに地域活性化起業人の活用と地域産品の開発販売戦略を推進していきます。インターネットサイトを活用した地場産品のPR、現地ツアーおよび都内PRイベントの開催などにより本町を寄付先を選んでいただける仕組みづくりを推進し、寄付額2億3,000万円以上を目標に自主財源の確保と西会津ファンの獲得に努めていきます。

将来に夢と希望が持てる活気のあるまちづくりに全力で取り組んでいきますので、町民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

# 健やかな人をもに育むまちづくり

## 子育て支援

若者世代が結婚や出産、そして子育てに期待や希望、喜びが持てるまちづくりに向けて、令和7年度から令和11年度を計画期間とする第3期子ども・子育て支援事業計画の策定を進めます。

出産祝金をはじめ、保育料の無償化、乳幼児家庭子育て支援金の支給、インフルエンザ予防接種の無償化や放課後児童クラブの2人目以降の無償化を引き続き実施していきます。また、子ども1人の出生につき原則10万円が交付される出産・子育て応援交付金などを継続し、子育て世代の経済的負担を軽減します。



子育てコミュニティ施設キッズランド芝草は、子どもの屋内遊び場として利用が定着してきたことから、今後は親同士や地域との交流など新たなニーズへの対応が図られるよう、子育て世代の人や地域の皆さんと検討を進めていきます。

## 教育環境

新たに学習用ソフトウェアの充実や3Dプリンターを設置し、プログラミング教育の強化を図ります。また、児童生徒や教職員を支援するICT教育支援分野の地域おこし協力隊の2人体制を継続し、主体的・対話的で深い学びを実践します。

また、本町教育の不易流行を融合・継承するため「西会津子ども研幾塾」や武蔵野大学との連携協定による「アントレプレナーシップ教育」、国際社会に対応できる豊かな

人間性を身に付けさせるための「英語教育・異国文化体験事業」や、「英語検定受検料への補助支援」を引き続き実施します。新たに英語教育支援分野の地域おこし協力隊を確保し、英語教育の強化を図り、西会津高校および町内在住高校生への支援も進めます。

最終年度となる文部科学省事業「幼保小の架け橋プログラム」は、カリキュラム開発会議を核に、連携教育カリキュラムの開発と実践、5歳児と小学校1年生を中心とした協働的な学習の実践などにより、保小中連携体制を強化していきます。

教育関係施設においては、施設完成から20年を経過する中学校および給食センター施設の建物・設備の老朽化が進んでいることから、計画的な修繕工事を進めます。



## 生涯学習

若者を対象とした講座である「西会津大人研幾塾にしあいづLabo」を開催し、公民館講座の充実を図り、町民一人一人が主体性をもって生涯学習に取り組める場の提供を図ります。

## スポーツ

運動を習慣化するため、気軽に取り組めるグラウンドゴルフ、カローリング、ボッチャ、モルックなどのニュースポーツの普及を主体に推進していきます。また、競技力の向上では、



ふくしま駅伝や軟式野球大会などの市町村対抗競技を中心に取り組んでいきます。さらに、スポーツ少年団など主体的に活動をしている関係団体の支援も行っています。

## 歴史・文化・芸術

町制施行70周年記念事業として町の歴史、文化、民俗について学べるガイドブック「(仮称)にしあいづ学」を発刊し、成果を発表できる機会を設け、伝統芸能の継承と芸術文化活動を支援していきます。

## 農林業

町農林業振興アクションプランに基づき、戦略に掲げた重点事業を軸に、「米」「ミネラル野菜」「菌床キノコ」の振興を3本柱として各種事業に取り組んでいきます。

令和5年度に設立した一般財団法人西会津町農業公社の運営支援を行います。また、地域の目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する地域計画の策定や、担い手農家などの育成・支援、農業振興地域整備計画の見直しを重点事業として取り組んでいきます。

### ◎西会津産米

「西会津一うまい米コンテンツ」を継続し、知名度向上、販売力強化を図り、農家の営農意欲と栽培技術の向上につなげます。

また、「石高プロジェクト」の本格的な推進により、デジタル面からも米の販路拡大と農家支援を行います。

### ◎ミネラル栽培

健康な土づくりの次のステップに向けて、ミネラル栽培基準の見直し検討を行います。

# 温故創新 地産地笑のまちづくり

す。さらに、キュウリ生産者向け栽培暦の作成、成分分析、逸品づくりの検討、生産・販売体制の見直しに向けた調査・検討など直売所における生産管理体制の強化を図ります。

### ◎菌床キノコ

パイプハウス整備の支援により生産量と出荷額が増加していることから、産地化に向けて引き続き支援を継続し、積極的に取り組む生産者にパイプハウスの貸し付けを進めます。

### ◎鳥獣被害防止対策

イノシシの被害が深刻化しているため、引き続き鳥獣被害対策専門員の配置を継続し、地域の支援に取り組みます。また、電気柵の設置やICTを活用した捕獲対策の推進、新規猟銃の購入支援など、総合的な被害防止力の強化に努め、被害の低減を図ります。

## 商工業

「企業支援補助金」や「中小企業振興資金融資制度貸付事業」を引き続き実施し、「中小企業融資制度資金利子補給補助事業」については、補助対象資金を拡充します。

さらに、有害鳥獣解体処理施設の有効活用を図り、原子力災害対策特別措置法に基づき出荷が制限されているクマやイノシシなどジビエ肉の出荷制限解除に向けて、県と連携を密にして取り組みます。

さらに、「無料職業紹介事業」により地元企業の求人情報を提供し、雇用の創出・確保を図ります。また、起業・創業者に対して「創業支援事業」や「空き店舗及び空家利活用補助事業」などの支援を行い、令和5年度に設立した「西会津町事業承継協議会」と連携した施策にも取り組みます。

## 観光・交流

西会津なつかしca r Show、西会津ふるさとまつり、西会津雪国まつりなど町内外から多くの来場者があるイベントの実施により、情報発信と交流人口の拡大を図ります。また、町の核となる観光資源の環境整備を進め、温泉健康保養センターの温泉掘削工事並びに、機械室改修工事など計画的な維持修繕を進めます。

さらに、観光分野における地域おこし協力隊を新たに配置し、町の観光振興を図っていきます。

## 移住・定住

移住・定住総合支援センターを一層強化し「定住住宅整備費補助金」による支援を進めます。また、空き家を町が改修し、移住者用の賃貸住宅として活用する「空き家利活用事業」に取り組むなど、さらなる移住者への支援を推進します。

このほか、「特定地域づくり事業」では、マルチワーク環境をつくり、地域おこし協力隊事業の推進と併せ、移住者の就業機会の創出を目指します。



# いきいき健康こころつながるまちづくり

## 健康づくり

町民の皆さんの健康づくりを支援するため、健康コミュニティづくり推進事業に取り組み、6年目を迎えます。引き続き、鎌田實先生や奥知久先生の指導を受けながら、「からだ」の健康、「こころ」の健康、「つながり」の健康の3つによる「さすけねえわ（輪）」の健康づくりを進めます。

また、身体機能の維持・向上の効果が認められる「ラジオ体操」について、NHKラジオで全国に生放送される「巡回ラジオ体操・みんなの体操会」が、本年8月に本町で開催されることが正式に決定しました。これを契機にラジオ体操の普及拡大と浸透を図り、町民の皆さんの運動習慣定着へ向けてさらに推進していきます。

町民の皆さんの健康づくりを支援するため、健康コミュニティづくり推進事業に取り組み、6年目を迎えます。

また、「人間ドック助成事業」を周知し、受診費用の負担軽減に努めながら病気の早期発見・早期治療につなげていきます。

## 医療

歯科を除く町内唯一の医療機関である町国保診療所は、町民への医療の提供のほか、町内の施設入所者への診療や学校医・産業医など、町の医療サービス全般を担っています。本年度も3人の常勤医師による診療体制の維持・強化を図っていきます。また、会津医療センターや民間病院などに非常勤医師の派遣を要請し、整形外科の診療を継続するなど、今後も安心できる医療体制の整備と安定した地域医療サービスの充実に努めます。

## 高齢者福祉

「西会津町保険事業計画・第10期高齢者福祉計画」に基づき、元気な高齢者から要介護高齢者まですべての高齢者の皆さんが、切れ目なく介護予防に取り組める体制を整備します。

さらに、「西会津町医療介護連携推進基本構想」に基づき、介護老人施設の整備について、まちづくりとの連動や財源の確保など全庁横断的な検討を行い、町民の皆さんとの合意形成などの課題へ対応を進めていきます。

また、認知症に関連する相談も増加していることから、本人や家族に寄り添った支援や、認知症にやさしいまちづくりを一層進めていきます。住み慣れた地域でその人らしい生活ができるように、地区サロンや地域ネットワークづくりを支援するとともに、見守り協定を締結した郵便局

## 社会福祉

地域におけるボランティア活動へのニーズが多様な分野に及んでいることから新たにボランティア活動サポートセンターに配置する地域おこし協力隊や福島大学と連携するとともに、会員自らが企画・提案していく新たなボランティア手法を確立し、活動を通じた生きがいづくりの強化に努めていきます。

## コミュニティ

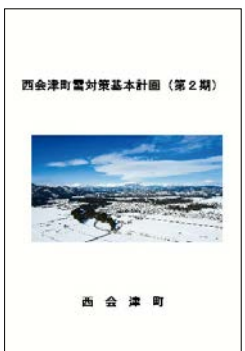
人口減少や少子高齢化が進む中、集落機能の維持や集落活性化に向け、引き続き集落支援員および集落支援担当の地域おこし協力隊を配置します。奥川・新郷地区の支援に加え、野沢・尾野本・群岡地区にも範囲を広げ、支援を進めます。

# 誰もがこころよく暮らせるまちづくり

## 雪対策

昨年12月に策定した雪対策基本計画（第2期）に基づき、官民協働による克雪活動を進めます。また、町民生活に支障を来さないよう引き続き道路除雪に努め、除排雪に必要な施設整備や除雪機械などの更新を計画的に進めます。

## 町雪対策基本計画（第2期）



## 交通体系・道路網

町民バスについては、定時定路線バスとデマンドバスのそれぞれの利点を生かした運行の見直しを図りながら利便性の向上に努めます。地区のサロン

や老人クラブを対象とした出前講座などでAIオンデマンドバスを含めた利用方法の周知を図るなど、バス交通体系の充実と利用促進に努めます。

道路網の整備については、安全・安心の確保と持続性のある地域づくりを支え、良質な社会資本を将来に確実に引き継ぐため、効果的な整備と効率的な維持管理に努めます。

また、町道の改良事業は、地域からの要望などに基づき計画的に整備を進めます。修繕事業は、老朽化している橋梁やスノーシェッドなどは点検結果と長寿命化修繕計画に基づき、損傷度や路線の重要度などを勘案しながら、計画的に修繕を進めます。舗装については、路面性状調査の結果に基づき、計画的に修繕を進めます。

国・県道については、町を

## 情報通信

「デジタル戦略」を推進し、デジタル技術を戦略的に有効に活用することで、地域課題の解決や行政サービスの向上、移住定住の促進などを図っていきます。

## 消防防災安全対策

消防設備について、小型動力ポンプ付消防積載車1台を更新し、施設設備の充実を図ります。また、消防団の処遇改善や活動環境の見直しを行い、消防力の充実強化に取り組めます。さらに、消防団アシス

## 自然・環境保全

喜多方地方広域市町村圏組合の構成3市町村で共同処理するゴミ処理について、より一層環境に配慮したごみの分別・収集・資源化の促進を図るため、圏域が一体となって方策を検討し、その実現に向けて取り組みます。

老朽化が進んでいるさゆり公園施設の計画的な更新により、利用者の利便性向上を図ります。また、福島レッドホープスとの連携や大学、高校などのスポーツ合宿誘致などに

## 上・下水道の整備

上水道などについては、安全で安定した飲料水を供給するため、老朽管や施設設備の更新を計画的に進め、引き続き水道末普及地区の解消などに取り組んでいきます。

また、下水道については、施設の長寿命化対策と農業集落排水処理施設の統合により、効率的な運営に努めるとともに、個別排水処理事業の普及促進を図ります。



よる施設の有効活用についても積極的に取り組みます。